

スイカ（ウリ科）の概要

1 ウリ類（ウリ科の野菜）

- ・ウリ類の栽培は古代エジプトで、ギリシャ・ローマ時代にはすでに栽培されていた。
- ・ウリ類は主茎の頂端に花芽を形成しないで、成長を無限に続け、節には巻ひげを生じ、他物につかまって伸びる性質がある。
- ・根は浅根性で横に広がり、かつ繊細で再生力が弱い（カボチャ以外）ので移植性に乏しい。
- ・強光を好み、中でもスイカは最も強光を好む。

2 スイカの品種

- ・わが国へのスイカの渡来は江戸時代で、各地に普及していった。
- ・明治中期に欧米や中国から多数の品種が導入され、そのうち「アイスクリーム」はわが国の嗜好に適していた。
- ・わが国で栽培されている品種は、導入種としての特徴や改良地の環境によってそれぞれ異なった特性を持つ品種群に分けられる。
- ・主な品種群は、大和群、甘露（都）群、小果群、地方品種群（黒部、大仙、養老など）である。

3 スイカの栽培

(1)定植と管理

- ・苗の定植には16℃以上の地温が必要である。
- ・暖かい日に冷たい風に当てないようにして、キャップ（又はトンネル）の中央に丁寧に植える。
- ・親蔓（つる）は5～6節で摘心し、子蔓4本を伸ばす（子蔓がそろわないときは孫蔓を利用する）。
- ・着果したなら、その節より2～3節上の孫蔓からは摘み取らないようにする。
- ・15～18節を着果目標にして、人工交配（午前中）を行う。
- ・かん水は着果までは控え、着果後は積極的に行い、収穫2週間前からは行わない。

(2)病虫害

- ・早熟栽培では、生育期が比較的低温で、果実肥大期が高温多雨の時期になるので、生理障害が出やすい。
- ・予防には、土どくりや高畝栽培によって、生育を健全にすることが重要である。
- ・初期防除に心がける。

(3)収穫

- ・雌花が開花し、交配後40～45日で収穫できるが、収穫の10日前には玉直しを行う。
- ・交配日が不明のものは、巻ひげの枯れこみ、たたいた時の音等で適期を判断する。